

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792700017		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	グループホーム さわふじ		
所在地	沖縄県中頭郡西原町呉屋73番地1		
自己評価作成日	平成 26年 6月 9日	評価結果市町村受理日	平成26年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさわふじは、平成19年西原町で初めて指定を受けた地域密着型の施設です。町内を流れる小波津川は、昔ながらの住民の方々ほとんどが周知している馴染みの川。その川沿いは、静かな場所で、近隣には、八百屋や理美容室などが立ち並び、生活するのに便利な地域です。また、公共機関や病院、大型スーパーも車で10分～15分のところにあります。日常の用事は、入居者様と出かけるようにし、地域の方々と触れ合いを楽しんでいます。地域の皆様やご家族の皆様を支えられ日々の生活支援ができています。ホームは玄関を入ると天井の高いリビングがあります。リビングは、天窓があり天窓から差し日差しから天気・時間・季節を感じる事ができます。リビングを囲むように9個の個室が並んでいます。「広い森から落ち着ける穴蔵へはいる」というコンセプト設計です。法人の基本理念を元にケア理念を介護職員が構築、日々ケアに当たっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=4792700017-00&PrefCd=47&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4792700017-00&PrefCd=47&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年6月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域密着型サービス事業所としては、入居者との馴染みの関係を考慮し、職員の異動には配慮を求められているが、開設6年余を迎え、法人の方針として職員の異動を実施している。異動を実施する際、家族等の意見を考慮し時期を猶予した経緯もある。入居者と職員間の馴染みの関係を築くには家族の協力が不可欠で、職員は家族から情報を丁寧に聴取して、入居者の日常生活で試し、観察、支援しながら信頼の場面を一つひとつ増やしている。入居者への支援内容に大きな変更はなく、車いすの使用は異動時のみで使用後は居室に保管、介助は基本同性等、異動してきた職員の多くが地域密着型サービスの経験者で、入居者への視点を合わせ支援方法も共有して対応しているため、今年度から取組んでいる「個別活動支援」にも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年 7月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届くところに掲げ、日頃のカンファレンス時やケアに行き詰った時に振り返るようにしている。勉強会や会議時には唱和している。	事業所は3つのケア理念を掲げ、職員は入居者一人ひとりの「尊厳・思い・地域との関わり」に考慮した支援が実践できるよう努めている。定例会議等で職員は理念を振り返り、新任職員にはオリエンテーションや勉強会を共有の機会としている。今年度はこれまでの活動内容等を見直し、家族会の意見等も踏まえ個別活動の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の年間行事や作業、いいあんべー共生事業、日々の買い物など努めて出かけるようにしている。	入居者の行事への参加や周辺施設等への外出、住民と交流の機会、職員が地域の一員として清掃活動等への参加は定着している。福祉の専門として「車いすの操作」を公民館で実演して周知を図ったり、災害時等には、近隣住民が一番の支援者として捉え、日常的に挨拶等を通して信頼関係の構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の勉強会に地域の方々へも声かけをしたり、地域で認知症ケアを展開する事が支援方法の手本となると考える。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期に開催し、御家族代表や地域推進委員からの意見をいただきホーム運営の参考にさせてもらっている。	定期的に開催している会議は入居者や家族、行政等が参加し、議案に沿って事業所側の報告、委員間で意見等を交わしている。会議は議事録を整備して運営に反映させているが、外部評価結果の報告や、議事録の一部が確認できず、また、議事録に入居者の参加が記録されず、参加は1回のみ確認となっている。	会議は各委員が参加して定期的開催しているため、議事録への入居者参加の記載、議事録の保管等への留意が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域交流会などの行事に参加していただいたり、台風接近時や大雨時に巡回していただくなど、日頃からメールなども活用し情報交換に努めている。	事業所が町内危険氾濫河川に近い為、台風時等には関係職員が警戒を含め巡視等の連携を図っている。また、行政設置の地域密着型サービス運営協議会に於いて、年2回事業所の運営状況等を報告し委員とも意見交換をしている。町から研修案内を受け、職員の研修派遣に伴う協力も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の地域密着型サービス事業所合同の勉強会でも毎年取りあげ、理解を深め共有している 行動の抑制はもとより言葉による抑制もしないように意識している。	身体拘束をしないケアを事業所方針として明示し、入居者の家族には、転倒のリスクを説明し理解を得て支援している。事業所便りにヒヤリハットを掲載し、職員異動による影響を考慮し、入居者の情報やアドバイス等を家族に求め、職員間で共有して防止への取り組みに繋げている。	

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の地域密着型サービス事業所合同の勉強会でも毎年取りあげ、理解を深め共有している。行動の抑制はもとより言葉による抑制もしないように意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当事業所には対象となる入居者はいないが勉強会を通して学びの場を設け共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または、必要に応じ家族会を開催し、話し合い、説明をし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ご家族宛にお便りを送付し、入居者様の1カ月の様子を文書で報告するようにしている。また、ご家族から家族会において意見を頂いたりする事もあり、その件については回覧や会議を行い、改善に努めている。	入居者の意見は生活場面で把握し、家族からは面会時や家族会等で聞くように努めているが、更に表出できるよう伝言帳を玄関に備付けている。職員の接遇等についてはアンケートを実施し向上に活かしている。職員の法人内異動への意見には、職員体制の方針の説明と異動時期を見直す等で応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回面談を行い、職員が働きやすい職場づくりに努めている。	職員は定例会議で「介護計画の整合性」や「介護記録の充実」等について意見交換し、職員体制の見直で入居者の情報把握に努めたり、書式を変更等に繋げている。年2回の面談は職員側から「自信を得ている」と前向きな意見があり、管理者も「職員の本音が聞ける」と評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に沿って行なっている。職員の職場に対する要望などを確認し、職員の向上心につながるようつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の現場においても教育に努めている。また、法人内においては、勤続年数に応じ新人キャリアアップ研修など人材育成研修を実施している。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加入し情報交換を行ったり、法人内の地域密着型合同勉強会においてネットワークづくりの場を設けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問やホーム入居について本人の意向を確認したり、信頼づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人の課長も含めた面談を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向に合った必要なサービスや関係機関などとの相談、紹介を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話のなかで地域の「年間行事」についてその成り立ちや、歴史などを聞き出したり、日常生活では食事や簡単な家事作業などは共に行なえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	屋外活動はご家族へ参加を呼びかけ、日常の買い物や病院受診など入居者と家族が関われる時間を設けている。大掃除や地域交流会などは家族も準備段階から参加している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の個々人が大切に思っていることを把握するよう努めている。自宅訪問支援も必要に応じ行なっている。	入居者のアセスメントで情報を把握し、自宅訪問や地域行事への参加等に活かし支援している。他府県出身の入居者の家族からは手紙やハガキ、花が届き、入居者の近況を記述した事業所便りを送付し報告している。入居者の新たな情報はアセスメントに追加し支援に繋げている。	

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や特徴、また、その日、その時の精神状態を把握し、入居者同士が交流できるような環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係は保たれ、まれにホームを尋ねる方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の些細なことから本人の思いを尊重している食事や入浴も本人と相談し、希望に添えるよう努めている。	入居者の言葉「退屈だよ」、「ここでは仕事をしないと」等を把握して計画に反映し、支援に繋げている。入居者の「できる事」「生きがい」を役割に繋げ、毎日法人施設へゴミを職員と一緒に運ぶ役、洗濯物の整理や食器の洗い物等の役を支援している。入浴等「同性でないダメ」の声にも、職員を変更して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや家族からの聞き取りを行ないながら、馴染みの関係が途切れないようにしているまた情報は職員が共有できるようカンファレンス等で話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状況は申し送りや記録の中で情報の共有を図っている。個々人ができることを役割としてやっていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間においては、定例会議の中でカンファレンスを行い情報の共有に努めている 家族と職員の間では、面会時や電話などで連絡を取り、いつでも相談できる体制をとっている。	入居者の再アセスメント・介護計画の見直し・サービス実施状況の書式変更等を職員体制変更後に担当職員の視点等を活かして取組んでいる。入居者の状態や家族等の情報を反映して策定した計画は、個人生活記録でサービス実施状況が確認できる仕組みとなっている。担当者会議や計画の定期、随時の見直し等は規定に沿って実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、入居者の一日の流れが分かるように記載し、勤務者は記録に目を通したうえで一日の支援に取り組むことにしている。日々の記録・情報は、カンファレンスやモニタリングに活用している。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者のニーズ、本人の想いに対応できるように努めている。家族支援も介護職員が行う支援の一つと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催のいいあんべー共生事業を活用している。民生委員の人的資源も活用する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援方法はこれまでと変わりなく支援を継続している。医師と連携を取り、健康管理を行なっている。	入居者や家族の希望するかかりつけ医とし、病院受診は緊急な場合を除き家族での対応が原則として重要事項で話し、必要に応じて通院介助や送迎を行っている。訪問診療や歯科診療、週一回の訪問看護等、日ごろから医療との連携を密にし、入居者の受診情報やアドバイスを受け全職員が共有し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問で、24時間・365日の緊急対応を行なっているまた屋外活動へは可能な限り参加していただき、入居者の生活状況把握やご家族との信頼関係づくりを行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、ホーム内生活情報提供書を作成し病院側へ提供している入院中は職員ができるだけ面会にいき情報提供をするよう心がけている。入退院時はカンファレンスなどを活用し訪問看護師も参加し情報を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について勉強会を行いホーム内でできる終末期ケアについて検討を進めている。	事業所方針の明文化はないが、家族の意向には、医療的処置を要する場合は入院等、事業所ですること、できないことを説明している。職員は法人内勉強会や研修会へ参加し、支援の在り方等を検討している。訪問診療や訪問看護等と連携はしているが、終末期等に向けた体制等の取組みは未定となっている。	重度化した場合等の事業所方針の明文化や、入居者や家族の終末期に関するニーズを汲取り、事業所として対応し得る支援方法の共有、関係機関との体制作り等、取組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ依頼し毎年、救急救命法の研修を受講している。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練・勉強会・マニュアル確認に努めている。地域住民との合同の訓練実施も検討中。	総合訓練は5月に昼間想定で消防署と地域住民参加で実施し、訓練への協力は地域ヘチラシを配布して呼びかけている。災害時の避難経路は3か所あるが、氾濫警戒河川に近く、水害時の避難経路の確保が課題となっている。災害時の食料や飲料水の備蓄が不十分で、また、夜間想定訓練は秋頃を予定している。	災害や予測される災害時(台風等)には職員を2人配置する等考慮しているが、水害時の安全経路の確保と災害の発生に備えた食料や飲料水の十分な確保が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保や声かけには常に注意を払っている。排泄や入浴介助は極力同性で行なうようにし、人格の尊重、尊厳についても勉強会を行なっている。	権利擁護や個人情報についての研修会や、毎月開催の法人主催のマナー向上委員会に職員が参加している。委員会等の結果を事業所内で報告し、事業所独自で取組む目標を職員間で決定している。今月は「お一人お一人の顔を見て挨拶をする」を目標に掲げ、常に尊厳ある対応、丁寧な言葉遣いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のさまざまな場面において、自己決定ができるように働きかけている。本人が決めたことは叶えることができるよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の気分に合わせて、その時のペースで柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着や外出着は偏りが無いよう選択し、理美容については、ご家族と馴染みの店に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、準備、片付けまで可能な限り入居者と行う。キッチンが対面式になっている利点を生かし視覚や臭覚でも旬な食材を楽しめるようにしている。	食事は職員が調理し、食材は近隣の店に入居者と職員と一緒に出かけ購入したり、近所からの野菜の差入等もある。一人ひとりの力を活かしながら、食事の準備や片づけ(食器洗い、お膳拭き)等を支援している。職員作成の献立を法人の管理栄養士に検討してもらい、評価、アドバイスを受け次回に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士とその他の職員がチームになり献立の内容、量、カロリー、味など確認し評価する。献立はホーム内へ掲示し、食事・水分摂取量はカルテへ記載している。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。必要に応じて歯科医からアドバイスを受けることもある。年2回の定期訪問診療を検討中。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄介助を行なっている皮膚状態にも配慮し、入居者全員が綿パンツに必要に応じてパットを使用している。尿取りパットについても個々の排尿パターン、尿量によって合ったものを使用している。トイレでの排泄をする事で、自信につなげている。	入居者全員が綿パンツを使用し、必要に応じてパットを使用しているが、声かけ誘導をきめ細かく行うことでトイレでの排泄が可能となっている。各居室にポータブルはなく、夜間も一人ひとりの力や排泄パターンに応じてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりに合った方法で、様々な食事形態や水分摂取を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の入居者の気分により一日の中で、いつでも対応するようにしている。毎日入浴される方もいれば、週3回の方もいる。無理強いくことなく柔軟に対応している。	入浴は同姓介助を基本として個浴で、入居者や家族の希望で毎日入浴している方もいる。入浴時間は職員の都合や時間帯は決めず、柔軟に対応している。着替えの衣服は入居者の選択としているが、表出が厳しい場合は表情で汲取り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ一日の流れのなかで休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服状況が把握できるよう、内服効能表をファイリングしている。誤薬がないよう担当を決め、ダブルチェックにて慎重に行なう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの思いを尊重し、役割が継続でき、生き甲斐を持って生活できるよう支援する。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望があれば自宅への訪問など抑制することなく対応している。また旧盆や正月など年中行事や家族間の行事など、家族だけで対応が困難な場合は職員が付き添い行事に参加して頂けるよう支援している。	外出を年間行事として計画している慰霊祭の他、法人イベントへの参加、バーベキュー、サンエー、いいあんべー事業への参加は家族等の協力を得ながら支援している。ゴミ出しを日課として職員と毎日出かける方もいる。アンケート調査や個別ケアを通して外出希望の把握に努め支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて小遣いを預かり、必要な日用品は、ご本人で購入する事もある。お小遣い帳は年末に家族へ精算する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行なっている。本人宛に手紙や電話が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のスペースにその時々季節感を感じられる展示物を掲示し、楽しんでもらっている。	建物は「広い森から穴ぐらへ」をコンセプトに作られ、天窓の四方八方から光が差し込む共用空間は広い森、森から各ドアを開けると居室となる。居室から森へ出るとそこにはダイニングテーブルやソファが置かれ、畳の間では入居者と職員が洗濯物を畳み、入居者は各々でゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、気の合ったもの同士過ごしている。また、思い思いの場所で、過ごしている様子がある。共有スペースは、工夫次第で、その都度の対応ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が落ち着けるよう工夫をしている。居室内の家具類については、本人の使い慣れたものやご家族が本人に使って欲しいものを持ち込んで頂いている。ご本人らしさを居室にも求め、工夫している。	入居者がこれまで使用していた寝具やタンス、写真や家族との思い出の品を持ち込み過ごしている。居室はそれぞれの入居者が居心地良く暮らせるよう配慮され、各居室には緊急時用の車椅子を一台設置している。入居者毎に持込んだ私物管理表を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境については、職員やご家族とも相談し、入居者自身にあった環境づくりを工夫している。		